

11/30 早稿

論説

2021.11.30

新たな変異株 水際の警戒を強めたい



新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」が世界で広がりつつある。日本でもこれから人が動く年末年始を迎える。香港などの水際対策を強化すると同時に、いずれ国内でも広がると想定して警戒を強めたい。

南アフリ

カで見つか

った変異株

は欧洲や東

アジア拡

し、各國は

水際対策の

強化を始め

た。日本歓

の先進七カ国（G7）は、対応を協議する緊急会合を開催を決めるなど対応に追われている。

国立感染症研究所は、南アフリカではアルファ株からの変異株が強

が進んでおり、オミクロン株が強い感染力をもち、「ワクチンが効きにくくなる可能性がある」と懸念している。重症化リスクは不明だ。

世界保健機関（WHO）がオミクロン株を「タルタ株」と並んで警戒度が最も高い「懸念される変異株（VOC）」に指定した。

日本でも感染拡がる「十八日」同様の扱いを受め、厚生労働省は自治体にゲノム（全遺伝情報）解析による監視強化を要請した。

政府は、南アフリカを含むアフリカ九カ国を入国規制緩和措置の対象から外すことを決めたが、二十九日には香港からの外国人のビザ発給と同様の新規入国の原則禁止に踏み切った。

日本では新規感染者が減り、海外との人の流れを含む社会経済活動を再開する段階にあるが、ナルタ株の感染が爆発的に広がった今年夏の「德尔塔」のような警戒を許すわけにはいかない。

水際対策の遅れ、歐州からのウイルス流入を許した経緒もある。

その反省に立てば、水際の検査」「署員・成田空港にてウイルス流入を確認し抑える対策が最優先だ。人間規制の強化はもとより、感染状況に注視しつつ対策を迅速に実施すべきだ。

政府は、コロナ対策の全体像で構とした、専用病床と人材の確保など医療機関の強化に引き続き取り組んでほしい。希望者への三回目のワクチン接種も進めたい。

オミクロン株に対しても、私たち個人がで感染対策は変わらない。三密（密閉、密接、密接）を避け、マスクの着用、手指消毒の徹底を心掛けたい。